

北海道大学 国際共同研究指導シンポジウム  
「海外研究者と協力して、学生に研究指導するメリットと課題  
～学生も教員も幸せになる国際共同研究指導に必要なこと～」  
実施要項

1. 日時：2023年6月27日（火曜日）16：30～18：30
2. 場所：オンライン  
(パネリストは対面@中央キャンパス1階ラーニング・コモنز大)
3. 参加対象：本学教職員及び学外の教職員
4. 主催：北海道大学大学院教育推進機構
5. シンポジウムの目的：

大学院学生のより実質的な国際性の涵養、つまり専門研究分野における国際通用性の向上を実現するためには、単に海外大学で授業を履修するのみでは不十分であり、より中身の伴った海外留学制度ないし海外研究者との交流経験が必要である。特に、海外研究者と協力して研究指導を実施する、いわゆる「国際共同研究指導」を推進することは直接的に専門分野の国際性を高める効果的な方策となりうる。

また、国際共同研究指導は、教員と学生の間での研究指導に文化背景の異なる外国の研究者を組み入れることで、より広い視野と国際的な経験を学生に提供できることや、教員自身も新たな知見を得ること、更には発展的に国際共同研究に繋がる可能性があり、国際共同研究指導を推進することは大学の総合的な研究力の強化に貢献する可能性が高いと考えられる。

本学では国際共同研究指導を推進する方策を検討するため、これまで把握されてこなかった国際共同研究指導の全学的な実態調査を行っており、本シンポジウムでは、当該実態調査の結果報告を実施するとともに、調査により判明した本学の既存の様々なスキーム（元々は国際共同研究指導のためにデザインされたものではないものの、北海道サマーインスティテュート（HSI）、ラーニングサテライト（LS）、クロスアポイントメント、海外招へい教員等）を活用した国際共同研究指導の実施例を紹介し、国際共同研究指導のメリット及び推進するにあたっての課題について議論を深める。

6. アジェンダ

【プログラム案】	時間: 2時間 オンラインで実施
16:30~16:35	オープニング(5分) 主催者からの挨拶とプログラムの説明 理事・副学長 高橋彩 教授
16:35~16:45	国際共同研究指導に関するアンケート結果共有(10分) アンケート結果の概要の説明
16:45~18:00 15分/1人×5人	国際共同研究指導実施事例の教職員からの発表( )内は使用した本学スキーム 1. 工学研究院 准教授 磯野拓也 (外国人教員招聘制度) 2. 情報科学研究院 教授 吉岡真治 (クロスアポイントメント教員) 3. 先端生命科学研究院 教授 比能洋 (LS) 4. 情報科学研究院 助教 ジェプカ・ラファウ (外国人教員の視点から国際共同研究指導) 5. 国際先端物質科学大学院 Program Coordinator 河辺亮子 (派遣受入支援実務)
18:00~18:25	18:00~18:25 パネルディスカッション(25分) モデレーター: 石塚真由美 教授 パネリスト: 総長補佐 教授 石塚真由美 (モデレータ兼務) 理学研究院 教授 河村裕 (理学研究院国際化支援室長) 理学研究院 教授 坂口和靖 獣医学研究院 教授 堀内基広  テーマ 1: 大学院教育の国際化とは。 ~ネットワークの構築と研究室の強化~ 2: 大学本部からの必要な支援は。 ~部局任せにしない、大学本部からの支援は?~
18:25~18:30	クロージング(5分) 理事・副学長 高橋彩 教授 挨拶と今後の展開についての説明

以上